

6章 2030型セルフラーニングの開始

*中央教育審議会の資料を読み解くと、具体的な指導方法が考えられる。

1 2030型セルフラーニングの具体（個別最適な学びへの対応）

(1) 学習課題の選択

①課題が一つ ②課題が2～6、自己選択 ③課題は自己発見

(2) 学び方の選択

①ゼミナール型 ②班集合型 ③3色マーカー ④ワールドカフェ

(3) 子ども学習評価

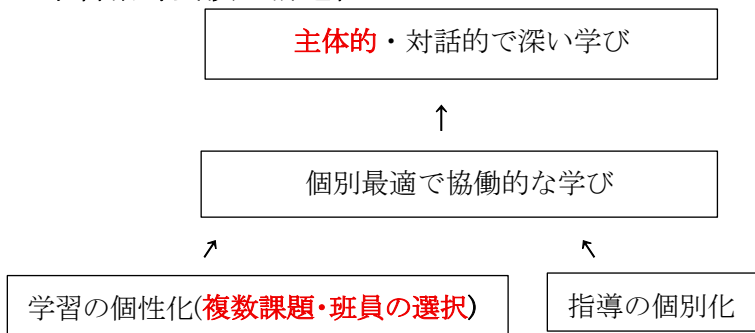
①個々で評価 ②学級全体で評価と数値化 ③学校全体で数値化（教師も参加）

(4) 異学年の学び

①全校学び ②隣接学年学び（複式） ③同学年交流型

(5) 教師の KEHAI を消す 教師は、ファシリテーターに徹する。

2 学習指導要領の構造化



私たちが学び方の行きつくところは、子どもが**主体的な**学びだ。子ども同士で対話を重ねながら、課題解決に向かって7通りの学び方で迫る。そのために、子どもたちが自分に最適な学び方で仲間と協働的に学ぶ。学習の個性化はその手段である。好きな仲間と協働的な方法で追究していく。指導の個別化は、指導者が徹底的に個別指導に入ることであろう。

3 授業改革6項目

(1) 学習課題とまとめの整合性

学習課題を書いたら、すぐにまとめの1行目を書く。その際、「つまり」から課題の1行目を書き始める。研究が浸透していない学校は、こうした細かな所に気付いていない。それから「何を学ぶのか」につながる「めあて（課題）」を立てるとよい。

①問いかけ型（学びに向う力）「なぜ～だろうか（理由）」「どうすれば～できるだろうか（方法）」、子どもたちには、この方法が課題解決を図りやすい。

②めあてや課題が子どもたちから出にくい時や時間がかかることが予想される場合は、リーダーや指導者が書いておく。

(2) キーワード（教科用語）中心の見通し3視点

見通しは、教科により方法が違うが、下記の3視点からいつも見通しを立てるとよい。

①学習内容・この時間に何をするのか

②学習方法・どのように学ぶのか・答えの見通し（見つけ方）・解き方を見通し

③アイテム・その時間に使う図形等・その時間に使用する教材・教具等だが、**中学校には、キーワードを最初から出し合う・出しておくことを推奨している。キーワード一つでも十分に見通しで通用するからだ。**

(3) **黒板の説明を少なく（一斉指導を減らす）** 黒板をできるだけ使わない。従来からの教師主体の授業が続くからだ。教師が理解させようよう、させようとするとうとう教師が黒板を占領し解説型授業となる。-21-

大まかな授業グッズ（学習過程）を貼るだけで充分である。なお、学習リーダーや子どもたちが使うのは良い。教師主体になっていないかいつも自分に問う。

(4) 考察方法は3案で

考察方法は、7通りあることを、備品 260 号で記した。これまでの、比較（共通点・相違点）・仲間分け・関連づけ・統合等の観点で整理することは間違いないが、時間がかかりすぎる。そこで、①班集合型、②ゼミナール形式 ③ワールドカフェ形式の3案にするとよい。①班集合型は、文字通り、全員が班の近くに行き説明を聞く。いくつかの班の考えを聞き、自分の班の考えに活かす。②ゼミナール形式は、自分の考えを短冊やホワイトボードに書く。班員全員の短冊と構造化を図る。③ワールドカフェを行った後さらに全員の創意の構造化を図る。

(5) 自力解決にすぐに向かわない

分からない子どもに問題を解けと言っても難しい。そこで、自力解決にすぐには向かわないことだ。例えば、3人班で最初に相談→一人→6人班になり、ワールドカフェを行い、まとめ、振り返りに向かう。「相談して」がキーワードとなる。

(6) 個別指導が教師の仕事（教師の立つ位置）

次期学習も「指導の個別化」を目指している。教師は、授業の進行は出来るだけ学習リーダーに任せ、徹底的に個別指導をする。タブレットであれば、生徒の進行状況も見えるはずだ。

①机間指導に専念

セルフ授業が行われると、教師は子どもたちの学びの状況把握に専念できる。ここが一番重要で、学習に向かえない子どもの指導を重視する。ICTでは、瞬時に子どもたちの学びの進行度を把握できる。

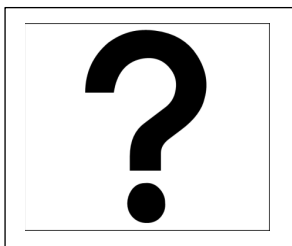
③学習リーダーの進行状況の把握

学習リーダーに授業の進行を任せるが、展開がうまくいかない場合や今後どのように進行しているかを常に確認する必要がある。Y大付属中では、授業の自力解決時や終了後に廊下で学習リーダーと打ち合わせを行っている。ほめる場合が多い

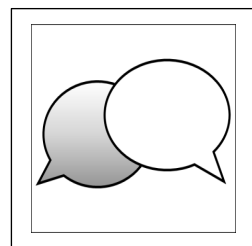
4 2030型セルフラーニング問題解決学習の過程

1 問題（資料）の提示 2 気付き 3 学習課題の設定 4 見通し 5 解決活動*どの段階から進めてもよいどこから進めてもよい（ア自力解決 イ集団解決（ペア、班、学び合い）・単純意見交換・3通りの考察 ウまとめ エ振り返り）

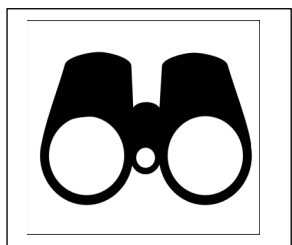
御津中学校の学習過程（みがく）



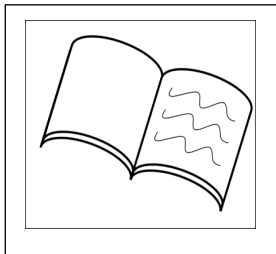
課題
今日の時間に解決する課題です。みんなで考えましょう。



話し合う
仲間で話し合う方法は「班集合」「ゼミナール」「ワールドカフェ」があります。



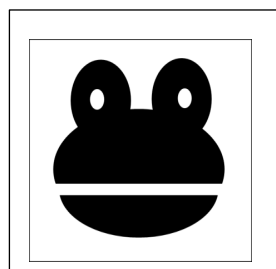
見通し
課題を解決するために見通しをもちます。キーワードなどをみんなで共有しましょう。



まとめ
課題について、キーワードを使い、みんなで話し合っただけで出た答えです。仲間に伝えます。



探る
見通しをもとに調べたり、試したり、考えたり、確かめたりする時間です



振り返り
今日一番大切なこと、さらに知りたいことや疑問に思ったことを書きましょう。

これまで、教師が学んだことを知識、技能として伝えていくことが主であった。この趣旨は良いが、実際は「教科書を教える」「好きな教科教育を研修」の実態がある。その結果、「教師がしゃべり過ぎ」「教師の教えすぎ」「児童生徒の活動が少ない」等があった。教師の「教えることが好き」という考え方も理解できるが、それが子どもたちの授業での「主体性」を奪っていた。セルフラーニングの成熟には時間がかかる。それが出来るようになったら、子ども自身が学びを進めていく。その成果として、教師はファシリテーターに徹することができ、「KEHAI」を消せなければならない。

5 子ども授業事前準備

子どもの事前準備	教師の準備
①教材開発 ②キーワードの洗い出し ③資料作成 ④ファシリテーターとの打ち合わせ ⑤「単元学習課題」書き ⑥進行スタッフや教師と打ち合わせ 「授業進行シート書き」 ⑦授業子ども台本書き	①教材開発 ②学習リーダーへの助言 ③学習指導要領読み ④学習指導案書き

6 当日子ども授業直前準備

子ども	教師
①黒板のグッズ貼り ②キーワードの張り出し ③資料出し・問題書き ④先行理解者の子との打ち合わせ ⑤ファシリテーターとの打ち合わせ ⑥進行スタッフや教師との直前打ち合わせ	①ファシリテーター徹底する ②「KEHAI」を消す

7 学習過程

1 前時の振り返り→ 2 問題（資料）の提示→ 3 気付き→ 4 学習課題の設定→ 5 見通し→

→解決活動の自由化 6 自力解決→ 7 集団解決（考察）→ 8 まとめ→ 9 振り返り

*どこから取り組んでもよい。

8 問題（資料）の提示（深い学びのために発展問題を推奨）

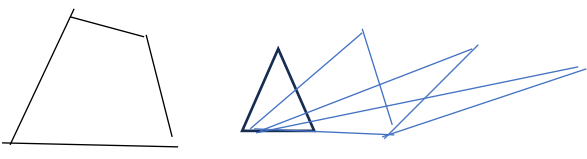
(1) セルフラーニングでの通常の問題（資料）

指導計画のねらいに沿った学習問題がよい。

(2) 深い学びにつながる発展問題を出題

教科書の問題や資料をそのまま使用しても深い学びにはつながらない。そこで発展的な問題や資料を使うとよい。学習リーダーと教師との打ち合わせが必要である。

四角形を、面積を変えずに三角形に変形する方法を考えよう。（中2数学）



A 先生が教室にイヤホンを落としてしまった。Bluetoothの電源を参考にしてイヤホンを探そう。（中1数学）

問 建設中の長さが285mの橋があり、西側と東側をつなぐ工事をしています。西側は昨日までに30mつくり、今日から毎日6mずつつくります。東側は今日から作り始め、毎日9mずつつくります。西側と東側がつながるのに、あと何日かかりますか。

(3) 異学年・異学級と行う学習問題

全校数学

問題を解決するために 方程式を使ってペアやメンバーと協力して「解」を解こう。

9 気付き

算数・数学系

分かれていることは

隠されていることは

隠いはいは

とめ方は

社会・理科系

気が付いたことは

考えられることは

調べてみたいことは

10 学習課題の設定

- (1) 問いかけ調 ～ か？
- (2) 知識・技能型 ～できる。
- (3) 思考判断表現型 ～考えよう。
- (4) 行動・考察型 ～できる。それを考察しよう。

◎11 学習課題の自由選択

2030型セルフラーニングでは、個別最適を意識し、課題を学級でいくつか出し合い、それを子どもたちが選択する形式をとっている。

従来の学習課題は、一つであっても自分なりに解釈させている。それが、追究方法の自由化につながっている。

①社会（小6）

- ・提示された資料・本文・資料集から、気が付いたことをペアで話し合い、その場で話す。
- ・今日の課題を話し合い、2つ程度にしぼり、各自で選択をする。
- ・授業の流れをピクトグラムで確認する。
- ・キーワードをペアで話し合い、全体で4つ程度に絞る。

②数学（全校）

めあて： x と y は関数の関係か、また、どんな関係であるか、式、表、グラフの特徴から考え説明しよう。示された課題を自分でえらぶ。

課題・めあての自由選択



12 まとめの書き出し「つまり、・・・」

学習課題を書いたら、すぐにまよめの1行目を書く。その際、「つまり」から書き始める。研究が浸透していない学校はこうした細かな所に気が付いていない。「めあて（課題）」の1行目をリーダーが書いておく



13 見通し

基本、キーワードを出し合う。もしくは、事前に学習リーダーが決めておく。これでほぼ済む。

国語等は、学習内容、学習方法、アイテム（使用する道具）、キーワード等で見通す。

*学びで多く使う時間は、解決活動である。見通しまで多くの時間をかけない。

-----ここまで開始から7分-----

14 解決活動(5 自力解決 6 集団解決(考察) 7 まとめ 8 振り返り)

1 2030 型個別最適の学習過程

<p>基本型</p> <p>問題 ↓ 気付き ↓ 課題 ↓ ま書き出し ↓ 見通し ↓ 3人班 ↓ 自力 ↓ グループ ↓ 3大考察 ↓ まとめ ↓ 振り返り</p>	<p>2030 型課題選択</p> <p>問題 ↓ 気付き ↓ 課題の選択 見通し ↓ 自力 ↓ 選択小G ↓ 選択大G ↓ ワールドカフェ ↓ 班集合型考察 ↓ 選択小G ↓ 選択毎まとめ ↓ 選択毎振り返り</p>	<p>2030 型班選択型</p> <p>問題 (発展的な問題) ↓ 気付き ↓ 課題選択 (個別) ↓ ま書き出し ↓ 見通し ↓ 自力 (個別) ↓ (4つの考察方法) 好きな仲間で集合型考察 ↓ ワールドカフェ ↓ 仲間と再考察・まとめ・振り返り ↓ 子ども協議会 (数値化)</p>	<p>2030 型異学年異学級型</p> <p>問題 (特設問題) ↓ 気付き ↓ 課題選択 (個別) ↓ ま書き出し ↓ 見通し ↓ 自力 (個別) ↓ 異学年異学級で集合型考察 ↓ ワールドカフェ ↓ 異学年異学級班集合再考察 ・まとめ・振り返り ↓ 子ども協議会 (数値化)</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

◎ 2 学び方の選択（4通りの考察）

1 ゼミナール考察（越知小）

①グループごとに話し合い、それぞれが気づいた事実や意見をまとめる。

ア 意見交流 各自の考え（必ず出す）を交流する

イ 考察 出た意見をもとに交流をする

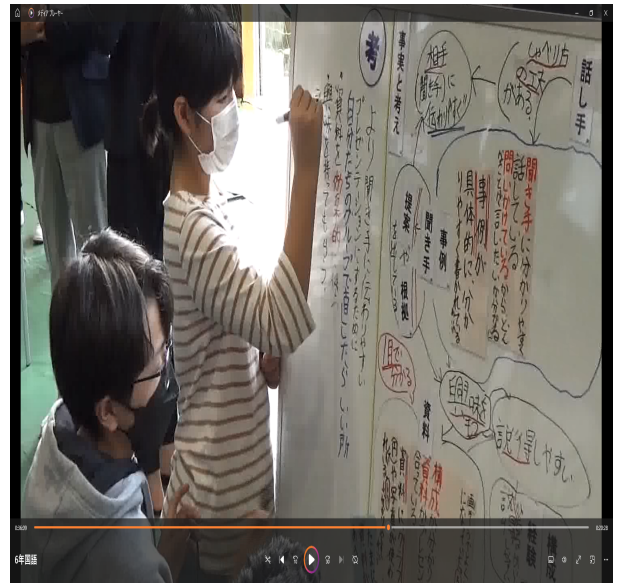
②グループでまとめた内容を、他のグループに分かりやすく説明するための準備を行う。

③ワールドカフェを行うために、残って説明する人と他のグループから情報を収集してくる人を決める。

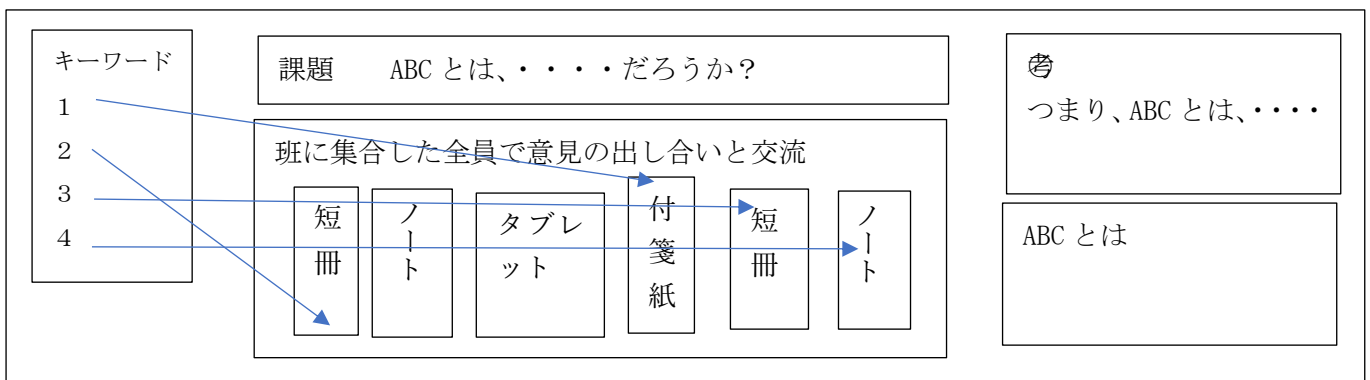
④グループに残った説明者は、他のグループの情報収集者に自分たちのグループの考えを説明する。情報収集者は、自分たちのグループで発見できなかった情報を収集し質問をする。

⑤情報収集で得た新情報をもとに、再度グループで検討しまとめる。

⑥まとめ（つまり・・・）と振り返りを行う。



大ホワイトボードの内容（各教科共通）



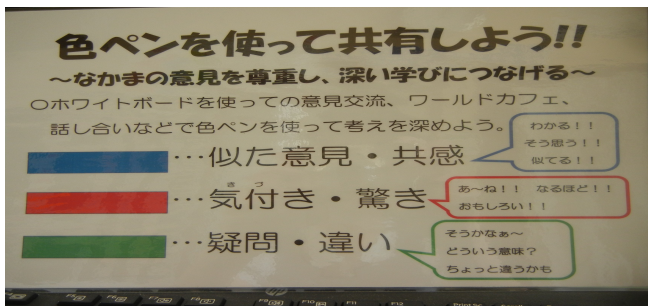
2 班集合型考察（長沢中）



グループで話し合った後、いくつかのグループのところへ全員が集まってさらに話し合う方法。

集まったところで情報交換した後、もう一度もとのグループに戻って話し合う。

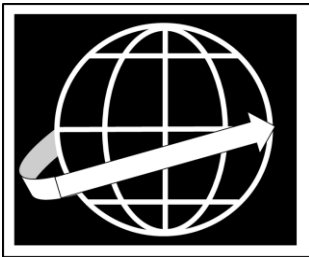
3 3色マーカー方式（三原中）



個人やグループの考えの比較の見える化を図る。

3色マーカー（青＝同じ考え、赤＝新たな気づき、緑＝違い）を使う。アクティブな意見交流にもつながる。

4 ワールドカフェ（備品 296）



課題に対してグループで話し合う。話し合いの内容を伝える代表者（ホスト）を残して、別のグループを作って話し合う。この時、一度話し合った人と同じグループにならないようにする。元のグループに戻り、各グループで話し合ったことを伝え合い、課題を解決し、まとめる。

15 まとめ・振り返り

「つまり、・・・(課題の1行目)」は、すでに書いてあるので、この後は個人でノートやタブレットに書く。説明書きが多いほどよい。家庭学習を行う時に参考になる。

振り返りは、分かったこと、新たにやってきたいこと、気が付いたこと等をノートやタブレットに記入。発表する必要はない。次時の学習の初めに全員発表を行うから。

◎3 異学年・同一学年・全校交流授業、学びの交流授業、イエナプラン (備品 228)

子どもたちは生活の中に「教え教えられ」がある。年齢を超えて学び遊ぶ。部活動はその一例だ。だが、教師文化の中に異年齢子どもの学び合いの考えはない。不思議なことだ。

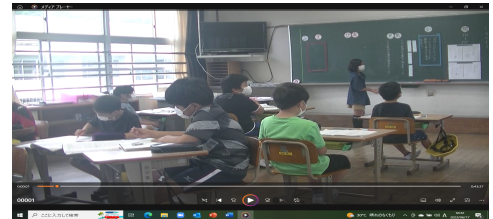
私たちは、「同一学年同一指導の教育課程」を貫いてきた。だが、複式の授業を見たとき、それでよいか疑問をもった。上学年と下学年が同じ部屋にいて、それぞれが個別に学習をする。問題は、「わたり」として、教師が歩き、そこから授業が進む。先生が来ないと何も始まらない。これでは、主体的に学ぶ力はつかない。

幸い実践校の子どもや教師は「学習スタンダード」を身につけているので何ら単式の学級と変わらない。

考えてみよう。学校は、異学年の子どもたちが同居している。この財産を使わない手はない。先輩から教えてもらえる、同じテーマで異学年同士の学び合える良さが身近にある。オランダの異学年交流の学び（異学年をグループにした個別最適な授業）の例があるが、ダイナミックに授業を変えるため新たな学び方を開発しよう。

(1) 学習課題はちがうが「教えに行く佐喜浜スタイル」

完全複式の学校である。その佐喜浜小学校へ同じ教室内の上学年の子が下学年に教えに行く授業を依頼した。昨年学んだ6年生が、「見通し」の段階を5年生に教えに行く姿があった。ごく自然にそれも得意そうに教える6年生は頼もしかった。教師ではなく先輩から学ぶ下学年の子供たちも喜んでいて。



子どもたちは、狭いコミュニティに陥りやすい。だが、この逆境を良いほうに変えられると確信をした。これまでの異学年で算数や国語の教科を学ぶことはなかったが、今回の「佐喜浜スタイル」数は子ども同士の教え教えられる関係であったため教科の専門性も十分に身につけたと思う。

日本の新たな学びの方を開発されたと思う。人同士の絆を感じた佐喜浜スタイルは、学年により学習課題は異なるので個々に進めていく学習ではない。子どもたちが「佐喜浜小はいいな」と感じて欲しいという教職員の願いがこの実践にはあった。上学年が下学年にすぐに教えに行く。どの学校でもすぐにできることだ。

(2) 学習課題は違うが学び合いの中で交流（イエナプラン型学びの交流）

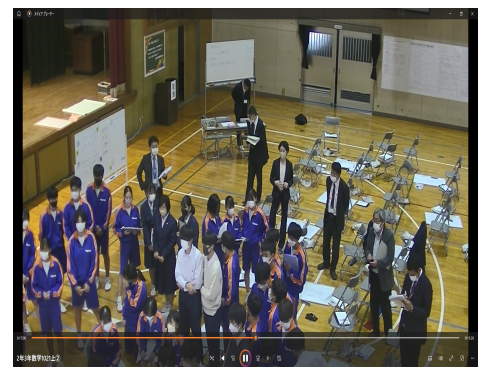
最近、個別最適な学びといわれる。異なる3学年の子どもが生活班を組み、それぞれ個々の教育課程を進めていく方法だ。この制度は学校の教育課程が個々の子どもたちに任されているので、それぞれが自学学習すればよい。だが、身近な異学年同士で交流をしているのが特徴でもある。

高知県の複式学級で見たのは、学年が違うので学習課題は異なる学習だ。最初から交流する場面が2か所、設定してあった。「班やゼミナール」「ワールドカフェ」の学び合いの学習段階の中だ。異学年で自然に聞き合えることができているので、異学年が一緒にいないのではないかとさえ思った。たとえ学習の流れは学年が違っていても同じ空間にいたら一緒に学ぶことができる。通常の学級でもできると思うし、実践していただきたい。

(3) 共通学習課題による異学年交流版（長沢中型イエナプラン）

個別最適な学びとは違うが、長沢中版のイエナプランは、学習課題が異学年でも同じであったことだ。

中2中3生が体育館で数学の学習を行った。中3は復習的に、中2は発展的に学習課題を設定すると、共通した学習課題ができる。当日は、中3が中2に真剣に数学のコーチをしていた。自分たちも行わなければならないが「教える」ことが先行したことは良かった。異学年でチームを組む班もあり、まるで「部活動」を見ているような学習風景であった。学校力、授業力、生徒の自学力が著しく向上した学校だ。一度は訪ねたい。

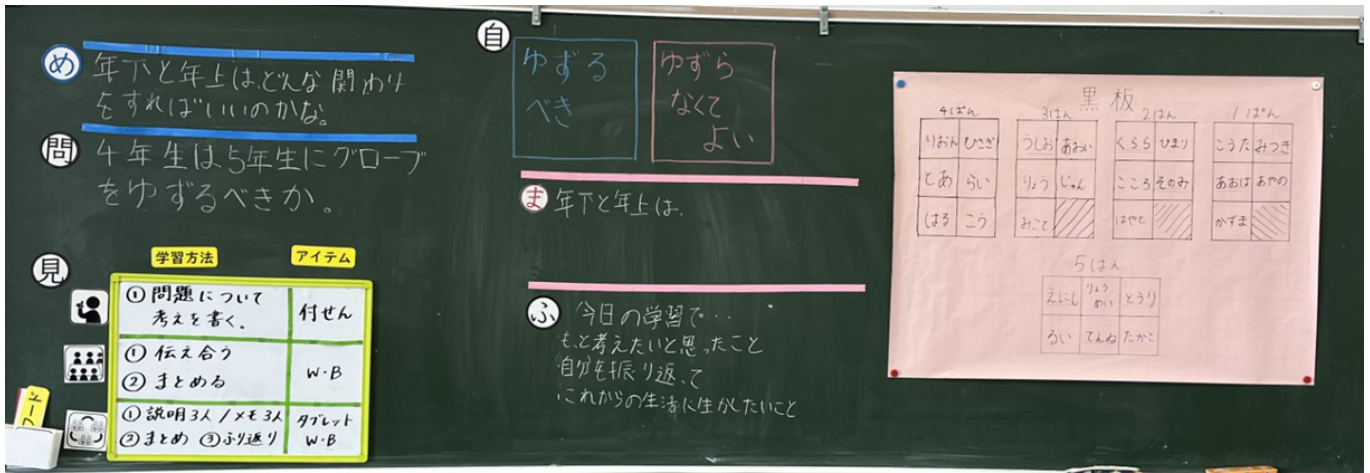


◎「主体的」とは、だれのことをいうのだろう。これまでの「自ら学ぶ」が重要と言われてきたので一人のことなのだろう。今次の学習指導要領では、「アクティブ・ラーニング」が出てきた。これは、全員活躍型・みんな活躍型が関係をしていると思う。だが、学びは、同学年の中だけで終わらないはずだ。学校は、異学年の子どもたちが登校して来る。複式学級には2学年の子どもたちが入室している。個別最適な学習が前面に出てくるので、異学年交流授業を実践する日はそう遠くない日が来る。校内の異学年の学びで主要教科を学ぶことは必須だ。

(4) 異学年交流の道徳(備品 251 万田小)

授業は、5年1組と4年1組を半数ずつに分けて、2つの教室で開催された。各教室には担任が付いてはいたが、出番はいずれもほんのわずか。授業の大半を5年生が進めていた。ただし、グループリーダーへの的確な指示は、教師の役割としてもポイントでした。

①当日の板書(2つの教室ともに同じ板書)



②授業の様子



どちらの教室も学習リーダーが自信を持って授業を進めている姿に驚いた。「この授業は自分たちが進めるんだ」という気概を感じた。各グループのリーダーたちも素晴らしい活躍であった。



グループワークでは、4年生も自分の意見をしっかりと伝え、5年生はそれを上手に取り上げつつ、考察にまで持っていく姿…。4年生にとって、グループワークの仕方を肌で感じ取ることができたと思う。



授業が終わった後の様子だ。4年生は、憧れの5年生の教室掲示に魅入っていった。きっと、自分のクラスに戻ってから新たな視点でいくことができるだろう。

ワールドカフェから戻ってきた記録系のタブレットを囲んで、自分たちの考えを再度見直す様子から、深い学びにつながっていることが分かった。子どもたちの真剣な眼差しが、それらを物語っている。